

MIST 学会 会員各位

2023年10月14日、恵比寿ガーデンプレイス ザ・ガーデンルームにて第17回関東 MIST 研究会を開催しました。当番世話人を務めました船橋整形外科病院 脊椎・脊髄センターの小島敦より報告いたします。

今回は現地オンサイトのみでの開催でした。特筆すべき業績もない小生なので、せめて会場は記憶に残るようにと、あまり医学系の研究会や学会の行われることのない恵比寿ガーデンプレイスを会場に選びました。さらに会場だけでなくプログラム内容はもっと記憶に残るようにと今回の研究会を企画しました。そして当日、事前にご参加を希望していただいたにも関わらず、お子様の運動会であったり、秋の怒涛の学会シリーズの狭間、関西 MIST 研究会と同日開催であったり、また大学医局関連の研究会が重なるなど、日程的に参加できなかった先生や、未だに水面下で流行しているインフルエンザや COVID-19 の影響によりやむを得ず欠席せざるを得ない方もいらっしゃる中、65名の医師にご参加いただきました。

研究会に先だって、午前中には初の試みとなる、「脊椎エコーセミナー」を分科会として開催し、20名の先生方にご参加いただきました。5名の若手の脊椎エコーの貴公子を講師にお迎えし、ハンズオンを中心に行い、脊椎エコーの価値を目の当たりにし、参加者全員が満足いくセミナーでした。

そして午後から研究会の本会となりました。本会の序盤には、日常遭遇する脊椎脊髄外科 Common Disease に対するショートレクチャーを2つ企画しました。一つ目は、頸部神経根症に対する MIST として、①エコー下頸椎神経根ブロックについて 石元優々先生(和歌山医科大学)、②顕微鏡下頸椎前方椎間孔拡大術(MacF:Microsurgical anterior cervical Foraminotomy)について 神谷繁先生(船橋整形外科病院)、③全内視鏡下頸椎椎間孔拡大術による頸椎性神経根症治療のパラダイムシフト 小野孝一郎先生(日本医科大学)よりお話しいただきました。最先端を行く頸部神経根症に対する治療に関して、早速参加者との活発な質疑応答がなされました。

続いて、二つ目は腰椎椎間板ヘルニアに対する MIST として、①腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板酵素注入療法の効果と実際 井上雅寛先生(千葉大学)、②腰椎椎間板ヘルニアに対する最新低侵襲治療 伊藤全哉先生(あいちせぼね病院)よりお話しいただきました。私が医師になったころにはなかった椎間板ヘルニアの治療方法が今後は標準治療の一つとなっていくだろうと思われる素晴らしい講演を聞くことが出来ました。

また、スイーツセミナーでは、代官山ピカソルさんに、本来は1日24個限定の名物であるシュークリームを、私自ら無理を言って、参加者全員に行き渡るように大量注文をさせていただきました。美味しいシュークリームを味わっていただきながら、「脊椎手術におけるコ

ンピュータ手術支援技術の Up to Date」と名を打ち、北海道整形外科記念病院の織田格先生からは「頰椎後方再建術における患者適合型ガイドの有用性」、聖隷浜松病院の佐々木寛二先生からは「ナビゲーションの発展とアプリ化」について、先生方の豊富な経験と知識に裏打ちされた脊椎外科に安全性を導く最先端技術のお話をいただきました。今後、これらが脊椎手術の主流となっていく可能性を個人的にはとても興味深く感じた講演でした。

そして今回、「一般演題」は、会の中盤に設定し、興味深い6題が集まりました。3つのレクチャー・セミナーのあとで日常診療への向学心が湧いてきた時間帯に行うことにより、活発な議論による新しい知見、手術手技の工夫が見いだされたと確信しております。各発表は世話人先生方から採点式のご評価を頂き、太田記念病院整形外科の石原慎一先生が「頰椎症性神経根症のデルマトームと超音波ガイド下神経根ブロックの有効性」でベストプレゼンテーションアワードを獲得しました（写真2）。

会の終盤を飾る特別講演は、まず特別講演1では、大変ご高名なお二人の先生からお話をいただきました。済生会横浜市東部病院の福田健太郎先生に「腰部脊柱管狭窄症を伴った骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術治療戦略 – 低侵襲前方後方同時固定術の tips & pitfall」についてお話いただきました。福田先生のこだわりと、先生らしいユーモア満点の講演は会場に笑い声と感嘆の声が生まれ、場を盛り上げていただきました。続いて、富山大学の川口善治先生からは、「高い安全性を目指した脊椎手術手技の工夫」についてお話いただきました。脊椎外科医になって約10年はペディクルスクリューを挿入したことがなかったことや上級医師の執刀手術の手術録を夜遅くに必ず記載していたことなどを例に挙げ、現在取り組まれておられるロボット支援下の手術についてなど、川口先生の長年のご経験を踏まえた上で、いかにしてこれからの若い世代に対して安全に脊椎手術を伝承していくかという先生のお気持ちが込められたご講演でありました。そして、特別講演2は、徳島大学の西良浩一先生より「全内視鏡手術が創る脊椎外科の次世代 Gold Standard」についてお話いただきました。私が神奈川県にいた12・3年前、その当時は分離症の研究で有名な西良先生と出会い、色々勉強をさせていただきました。今回の講演では、西良先生がこだわる局所麻酔下での全脊椎内視鏡手術のお話を伺い、西良先生の低侵襲手術に対するこだわる理由が私なりに伝わって参りました。スポーツ選手に対する低侵襲手術だけでなく、全身麻酔を受けることができないようなご高齢の患者さんに対しての治療として、全脊椎内視鏡の位置づけを次世代へ繋げていきたいという思いが伝わるご講演でした。

今回は大変貴重なご講演を頂きましたすべての先生方に心から感謝申し上げます。

プログラムの冒頭でも述べさせていただきましたが、私自身これまでの関東 MIST 研究会や日本 MIST 学会を通じて、素晴らしい脊椎外科の仲間たちと出会わせていただき、多くの知見を得ることができました。これは紛れもない私の生涯の財産です。このような研究会の当番をさせていただいたのは、一生に最初で最後かもしれません。ですので、本研究会は

私の思いを精一杯込めさせていただきました。脊椎脊髄外科治療の最適解ははまだ統一されたものではなく、多くの脊椎外科医が患者さんに対して良い結果を導くために日々努力と苦勞をされております。患者さんに対する真の MIST を提供するために、本音で語り合えて、活発な議論および最新の情報提供がなされる本研究会が、今後も末永く続いていくことを願い、私自身も微力ながら貢献できるよう精進して参ります。

最後に、ご参加いただいた先生方、ご協賛いただいた企業に深謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

会終了時の全員写真を提示します（写真3）

研究会終了後には恵比寿ガーデンプレイスタワーの最上階に移動し、懇親会を行いました。約 50 名が大都会東京の美しい夜景を眺めながら、MIST の垣根を越えて楽しく熱く語り合いました。

次回の第 18 回関東 MIST 研究会は、那須赤十字病院の竹内大作先生が当番世話人をお務めになり 2024 年 3 月 9 日(土曜日)に開催予定となっております。皆様のご参加をお待ちしております。

第 17 回関東 MIST 研究会当番世話人

船橋整形外科病院

脊椎・脊髄センター

小島 敦



写真1 (エコーセミナー)



写真2 (プレゼンテーションアワード)



写真3 (集合写真)